

【6年】

○=よい点 ●=課題

国語	
■児童の状況	<ul style="list-style-type: none"> ○ 読書活動にすすんで取り組む児童が多い。 ○ 文章の構成を意識して文を書くことを、得意とする児童が多い。 ○ 読解力が高い児童が多い。 ● 計画的に話し合い、考えを広げたりまとめたりすることに課題がある。 ● 自分の考えや気持ちが伝わるように、豊富な語彙を活用して文章を書く力が不十分である。 <p>自分の考えや意見を発表することに苦手意識をもつ児童が見られる。</p>
■指導についての課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 資料を活用し、説得力をもたせた文章やスピーチなどの創作 ・ 発表活動の充実（少人数での自由な会話から、全体での発表につなげる）
■授業改善に向けての具体的な方策	<ul style="list-style-type: none"> ・ オクリンクで自分の考えを事前にまとめ、他の人の意見と比較させて話題を広げたり、新たな意見を生み出したりできるよう指導をしていく。 ・ ドリルパークや漢字ドリルを継続的に活用し、反復的な指導をおこなう。

社会	
■児童の状況	<ul style="list-style-type: none"> ○ 意欲的に資料を読み取ってノートにまとめ、日本の政治や歴史について知ろうとしている。 ○ 社会的事象への関心が高く、多くの知識を身に付けている。 ○ 地図帳や統計資料などの各種資料を通して、情報を適切にまとめようとする態度が身に付いてきた。 ● 地図帳や統計資料などの各種資料の情報を正確に読み取る力が不十分である。 ● 調べたことを国民生活と関連させて社会生活について考え、表現する力が不十分である。
■指導についての課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 様々な資料に触れさせる機会と資料解説の時間の確保 ・ 調べて分かったことを国民生活に関連させて、自分の考えを表現する機会と時間の確保
■授業改善に向けての具体的な方策	<ul style="list-style-type: none"> ・ 社会科だけではなく他教科でも様々な資料を扱い、関連付けて読み取る力の向上を図る。 ・ 既習事項と結びつけたり、国民の生活と関連させたりして考える活動を取り入れ、繰り返し指導し、評価する。

算数	
■児童の状況	<ul style="list-style-type: none"> ○ 問題に対して既習事項を用いて答えを出し、その解法を説明することに意欲的な児童が多い。 ○ 基本的な四則計算の技能が身に付いている。 ○ 問題の答えを求めた後も、別の方法を考えるなど意欲的に学習に取り組む児童が多い。

	<ul style="list-style-type: none"> ● 数が大きくなったり小数や分数を処理したりすることに苦手意識をもつ児童が多い。 ● 自分や友達の考えを分析し、考察する経験が乏しい。
■指導についての課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 児童一人ひとりに応じた指導・支援の充実 ・ 三角定規やコンパス、分度器を使って正しく図形を描く指導法の工夫 ・ 自分で考え、筋道を立てて説明する力の向上を図る指導の工夫 ・ 5年生までの学習内容の確実な定着を図る指導の工夫 ・ 自分と友達の考えを分析し、考察する時間の確保
■授業改善に向けての具体的な方策	<ul style="list-style-type: none"> ・ ドリルパークなどを活用し、個別最適な学習を充実させ、個に応じた技能の向上を図る。 ・ ノート指導を通して、図や数直線、式、言葉を使って自分の考えを表現できるように指導する。 ・ オクリンク等を活用し、自分と友達の考えを比較したりよりよいものを考えたりできるように指導する。

理科	
■児童の状況	<ul style="list-style-type: none"> ○ 実験道具を丁寧に扱い、理科室の注意点を意識しながら実験をすることができる。 ○ 自然事象に対する関心が高く、日々の中で疑問を解決しようとする意欲が見られる。 ● 実験に意欲的に取り組んでいるが、実験からどのようなことがわかるのかを把握できず、見通しがもてない児童がいる。 ● 様々な現象に対して要因や規則性に対して推論しながら実験計画を立てることに課題がある。 ● 実験後の考察を書くことに苦手意識を感じている児童が多い。
■指導についての課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 実験計画を立てる際に児童の考えを促す教材の工夫。 ・ 考察を書くために必要な情報提示の工夫。
■授業改善に向けての具体的な方策	<ul style="list-style-type: none"> ・ 複数のデータを提示し、そこからキーワードとなりそうな言葉を共有させてから考察を書かせるようにする。 ・ 現象との出会いを重視し、予想を立てる時間の確保と模範の提示を行う。 ・ 「実験からわかる事実→問題に対する自分なりの答えとその理由」というように、考察を書く際の流れを提示して繰り返すことで、自分の考えを文章化する力を育てる。 ・ オクリンクを活用して、他の児童の考えを共有できるようにする。

家庭	
■児童の状況	<ul style="list-style-type: none"> ○ 体験的な活動に関心をもって取り組み、実習を楽しみにしている。 ○ 友達同士アドバイスしたり、助け合ったりして作業できる。 ● 裁縫・調理において、児童の日常生活の経験に差がある。 ● よりよい方法や工夫の仕方を考えるなど、自分なりのやり方を考えたり、話し合ったりすることができる児童が少ない。
■指導についての課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 作品を製作する時間の確保

	<ul style="list-style-type: none"> ・ 体験的・問題解決的学習活動の工夫
■授業改善に向けての具体的な方策	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自己の生活における基礎的・基本的知識や技能を身に付けるために、多くの事例を示したり、体験的な活動をさせたりする。 ・ 個人差に配慮し、しっかり時間を確保した上で製作の見通しを立てさせる。 ・ 家庭生活に密着して問題を提起し、グループディスカッションやグループワークを取り入れたり、掛け図や資料を活用したりしながら、実践的な活動を充実させる。 ・ 家庭との連携を図り、学習内容を実生活に生かすように促す。

<h2>体育</h2>	
■児童の状況	<ul style="list-style-type: none"> ○ 運動や体育への関心が高い児童が多い。 ○ 自己の課題を把握し、具体的に動きを修正できる児童が多い。 ● 自己の課題を解決するために、友達とかかわりながらアドバイスをしたり協力したりする児童が少ない。 ● すぐに修正できない課題の解決を諦めてしまう児童が見られる ● 日常的に体を動かそうとする児童とそうでない児童に分かれてしまっている。
■指導についての課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 体育学習だけではなく、休み時間や放課後などにもすすんで体を動かそうとする意欲を高める指導の工夫 ・ 諦めずに取り組めるよう、児童の段階に合わせた指導方法の工夫 ・ 学習の中での、児童同士の対話時間の確保
■授業改善に向けての具体的な方策	<ul style="list-style-type: none"> ・ タブレット等を用いながら、目指す動きのイメージをもつことができるように、体の部位や動かし方について具体的な学習資料を提示して教える。 ・ 克服的・達成的要素の高い運動内容については、その動きを身に付けるために、より簡単な学習の場や方法を提示して動きの高まりを実感できるようにする。 ・ 「できる」「できない」と短絡的に運動をとらえずに、これまでの動きと比較するなど、動きの高まりを判断するための視点を与える。

<h2>外国語</h2>	
■児童の状況	<ul style="list-style-type: none"> ○ ゲーム的活動を通じて、外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しんでいる。 ○ デジタル教科書の動画や教師の見本を参考にし、自分で考えたことを伝えようとしている。 ● コミュニケーション活動の意欲に個人差があり、言葉の意味や言い方が分からないと日本語を使ってしまったり恥ずかしくて取り組めなかったりすることがある。 ● 外国の文字や文化に対する理解を深める時間が不足している。
■指導についての課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 英語を使って楽しくやり取りができる指導の工夫 ・ 単語や文、アルファベットを正しく判別する力を育成する指導の工夫 ・ 外国語の文化に対する理解を深める時間の確保
■授業改善に	<ul style="list-style-type: none"> ・ 児童が英語に慣れ親しみ、言葉の意味を十分に理解できるように ALT

<p>向けての具体的な方策</p>	<p>やデジタル教科書の音声を読いたり、発音したりする時間を多くする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 定型文ではなく、日常生活や自分について伝えたいことをやり取りする機会を設ける。 ・ 継続的にアルファベットや単語をなぞったり、写したりする時間を設ける。 ・ 動画教材やゲストティーチャーを活用し、外国の文化に対する理解を深める時間を設ける。
-------------------	--

<h2>総合的な学習の時間</h2>	
<p>■児童の状況</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 調べ学習に意欲的に取り組み、タブレット端末を上手に活用しながらアウトプットすることができる。 ● 課題について深めていく中で、多面的な視点で見ることや、多くの情報から必要な物を取捨選択する力に個人差がある。 ● 収集した情報をそのまま文章に書き写したり、言葉の意味を理解していないまま発表したりする児童がいる。 ● 調べたことを表現するとき、自分なりに工夫して表現することが難しい児童がみられる。
<p>■指導についての課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自ら課題を設定し、協働して解決していく探求的な活動の充実 ・ インターネットを適切に活用し、必要な情報の選択や情報の正誤を判断する技能の向上を図る指導の工夫 ・ 互いに学び合い、高め合うための共有する活動の充実
<p>■授業改善に向けての具体的な方策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 話し合いや発表など、互いの学びを見合い、伝え合う場面を多く設定し、互いに伝える力や工夫していく力を高め合えるように指導する。 ・ 情報リテラシーを身に付けるために、他教科の学習内容と関連付け、正しい情報の選択の仕方や入手した情報の確かめ方についての指導を繰り返し行う。 ・ インターネットなどで調べた文章を児童なりに要約し、自分の言葉で説明できるよう継続的に指導していく。